第 10 回埼玉大学男女共同参画室講演会

「女性教員を増やすことの意義と方法
－男女均等は世界の潮流」

◇講　師　　お茶の水女子大学ジェンダー研究所
　　准教授　申琪榮（しん・きよん）氏

◇日　時　　11 月 8 日（木）15 時 15 分～16 時 45 分
　　（受付：15 時 00 分～）

◇場　所　　総合研究棟 1 階　シアター教室

◇対　象　　埼玉大学教職員、
　　その他男女共同参画に関心のある方

2015 年に成立した女性活躍推進法から始まる国や文部科学省の施策を受けて、埼玉大学では 2016 年から 2021 年まで、女性教員の採用比率を人文社会科学研究科で 40%、教育学部で 30%、理工学研究科で 20%とする目標を掲げていいます。

しかし、こうした目標を掲げることについて、「なぜこうした目標に向かわないといけないのか」、「男女ではなく能力によって採用すべき」「そもそもこの分野では応募者の女性がいない」などの声をお聴きします。このような素朴な疑問について、ジェンダー研究及び政治学の分野でどのような理論構築がされてきたのか、クォータ制※やポジティブアクションの意義とその方法について、世界的な動向を踏まえてご講演いただきます。

※クォータ制･･･男女間格差是正のため、議員・閣僚などの一定数を女性に割り当てる制度。

講師プロフィール：

申琪榮（しん・きよん）

政治学博士、お茶の水女子大学ジェンダー研究所　准教授。専門はジェンダーと政治・比較政治学・フェミニズム理論・ジェンダー主流化政策など。近年日本、韓国、台湾の研究者らと国際研究ネットワークを構築し、女性の政治代表性の比較研究を行っている。学術雑誌『ジェンダー研究』編集長。一社）パリテ・アカデミー共同代表。共著に『The Oxford Handbook of Feminist Theory』,『Gender and Power：Towards Equality and Democratic Governance』,『ジェンダー・クオーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』，学術雑誌 Pacific Affairs, International Political Science Review, Politics & Gender などに論文多数。

主催：埼玉大学男女共同参画室